第28回
外国人市民による日本語スピーチコンテスト

今年は5つの国・地域出身の9名の皆さんが出場しました。留学生や働きながら日本語を学んでいる人、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が、オリジナリティあふれるスピーチをされたのが印象的でした。

上位2名の受賞者へ、インタビュー！

【質問】
①スピーチコンテストに参加した理由
②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
③スピーチをした感想
④日本語の難しいところは?
⑤将来の夢や今後の目標について

最優秀賞

張　沛慈さん【台湾出身】「推しを推そう！～私の主張～」

①これまでは自分に自信をもてず、人前で日本語を話すのが苦手だったので、このコンテストで自分に挑戦してみたいと思いました。
②最も興味をもっていることをテーマに選んだ方が、自分自身をアピールできると思ったので、ジャニーズのファンとして「推し活」をテーマにしました。
③最初はとても緊張しましたが、自分が言いたいことを言えて、皆さんに伝わったという手応えを感じることができて、すごく嬉しいです。今はほっとしています。
④日本に来る前は、独学で勉強していたので、自分の文法や話し方が正しいのかどうか、自信がありませんでした。日本語は、外国人にとってすごく難しいと思います。
⑤日本で中国語を教えて、もっと多くの人に中国語を知ってもらいたい。そして、中国語をグローバルな言語にしたいと思っています。

川崎商工会議所会頭賞

NGUYEN THI HONG NHUNG さん【ベトナム出身】「初めての雪」

①実は、もともと人前では緊張して話せなかったんです。日本に来てから、学校で何回かスピーチの機会があったのですが、なかなか参加できないでいました。今回は、自分の気持ちを入れ替えて、コンテストを探して応募しました。
②日本に来て一番嬉しかったことも、日本人の優しさや母国の家族に感謝したい気持ちも、雪をテーマにすれば入れられると思いました。自分の想いを全部、雪を通してスピーチに入れました。
③よい思い出を皆さんに語れることが、嬉しかったです。ちょっと緊張しましたが、おじいさんや友達のことを思い出しながら、思った通りに話せました。この経験のおかげで「自信をもってやればできる」と思えるようになりました。
Q：日本に住んで「困ったこと」や「よかったこと」はありますか?
介護の仕事で、おじいさん、おばあさんに、簡単な折り紙を教えてもらってもできなくて…一番困りました。よかったことは、やはり日本人の優しさに触れたことです。友達もできてすごく嬉しいです。
④漢字や文法が難しいですね。（スピーチの中で一緒に雪だるまを作った）おじいさんも漢字を教えてくれたんですよ。今は川崎市に引っ越してきたので、離れてしまいましたが、とても優しかったです。
⑤将来はベトナムに戻り、ベトナムでも自分の経験を伝えていきたいと思います。

川崎ライオンズクラブ優秀賞
PYO HYUN【韓国出身】
「日本のオモテナシと川崎市のドリョク」

川崎市国際交流協会優秀賞
Battumur Nandintsetseg【モンゴル出身】
「ルールを守ろう」

川崎ライオンズクラブ特別賞
曾 楠【中国出身】
「縛るな！人生」

川崎市国際交流協会特別賞
VU THI MINH HANG【ベトナム出身】
「日本は素晴らしい国」

審査委員特別賞
李 一鳴【中国出身】
「日本と中国レディースファッションの差」

審査委員特別賞
李 萬洙【韓国出身】
「韓国で見た日本と日本で見た日本」

審査委員特別賞
PHAM THI HUONG【ベトナム出身】
「日本に来てよかった」

司会のロウ・ウェンゼさん（左、マレーシア出身）と陳詔悌さん（右、台湾出身）

◎取材して一言

とにかく元気よく、笑顔で、小道具も使いながら、身体全体で表現してくれたスピーチに、思わず引き込まれました。何事にも消極的だった自分を変えようとして「推し活」を始めたこと、そして、こんなに積極的な人間になれたという話の展開には、一見、ミーハーなテーマの裏に、とても奥深い意志を感じました。受賞後のスピーチで、先ごろ逝去されたおばあさんに、台湾語で話しかけた張さん。それは「おばあちゃん、優勝したよ！誇りに思ってね。来世でも、また日本語の歌を歌ってちょうだいね。」という意味だったそうです。
（取材・文：編集ボランティア 岡崎 章）

初めて日本語スピーチコンテストを聞いたのですが、皆さんのお話の巧みさ、面白さに心を打たれました。中でも素敵なエピソードを語られたNGUYEN（ぐぇん）さん、インタビューの間もずっと笑顔で、丁寧にお話してくださったことが印象的でした。
（取材・文：編集ボランティア 相澤 弥生）

（撮影：編集ボランティア 安田芳郎　編集：川崎市国際交流協会 加藤恵美）